

鳥獣害対策について

和歌山県果樹試験場 環境部 主査研究員 角川 敬造



1. はじめに

和歌山県内では、イノシシやシカ、サル、アライグマなど様々な野生鳥獣による農作物被害額が約2億6千万円（令和4年度）と報告されています。

獣害対策を取り組む前に知らなければならないことがたくさんあります。特に野生動物の誤った認識や間違った対策は被害を助長する恐れがあります。今回は対策に取り組むための3つの基本について解説します。

2. 鳥獣被害対策について

【対策1】環境整備対策 ～農地へ引き寄せている要因を無くす～

○人がエサと認識していないエサが有る



廃棄果実を食べるサル



収穫されず果実が残っている放任樹

廃棄果実や放任果樹は、人には不要なため、野生動物が食べても怒らない。

（人は餌付けをしていると認識していない）



動物が農作物は「美味しいエサ」と学習する。



安心して食べられるエサ場となってしまう。

★対策 ～集落を動物の出にくい環境にする～

作物残渣は放置せず、コンポストを利用するか地中に埋めましょう。

放任果樹園は伐採、もしくは樹形を小さくするなどにより果実の量を利用する必要最低限にして動物の口に入らないようにしましょう。樹形を小さくすれば柵で囲う範囲を縮小できるのでより守りやすくなります。



作物残渣は食べられないよう囲む
※上にはネット等でフタをしましょう。



放任果樹園を伐採する様子

【対策2】被害対策 ～防護柵は正しい方法で囲い農地に侵入させない～

○囲えていない所（隙間）から侵入される

イノシシやシカなどの野生獣類は、農地へ侵入するときは柵の下の隙間（穴）をくぐり抜けます。



柵の隙間をこじ開けて侵入するイノシシ



柵の隙間をくぐり抜けるシカ

☆対策 ～柵設置後も放置せずに点検を実施する～

高さを気にするより、地際の固定と隙間を作らないことに力を入れましょう。

特に柵を設置した後は放置せず、定期的に点検を実施し、破損箇所があればその都度補修しましょう。

また、柵を設置した後のメンテナンスが重要なため、設計の段階で見回りができるよう管理道の確保を考えておきましょう。



土砂の流出により裾部に隙間が発生



倒木等による柵の破損

○電気柵を使用する場合の注意点

イノシシやシカなどの野生獣類は、鼻先で柵を確認する行動をします。電気柵は、この習性を利用しており、確認のために電気柵に触れた時、ショックを受け、痛い思いをさせて忌避させる心理柵です。そのため、通電性の低いコンクリートやアスファルト舗装の際部分に設置すると柵線から流れる電圧が低くなり電気柵として機能しない場合があります。コンクリートやアスファルト舗装から少し間隔を開けて、園地内の土の上に設置しましょう。

また、野生獣類は、口元や鼻先以外の体毛のある部分（赤丸部分）が電線に触れても殆どショックを感じません。

電気を流さない柵線を放置すると・・・



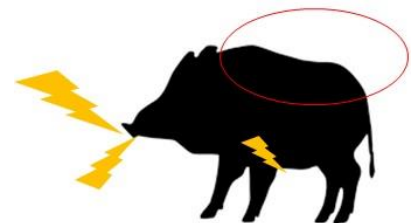
触れた獣が柵線を「痛くなく、怖くない」と学習



鼻先で確認せず、柵線をくぐり抜けるようになる



その後に電気を流しても、鼻先で確認せず柵線をくぐり抜けるようになり、背中の体毛部分に柵線が触れてもショックを感じず、柵の効果が薄れてしまいます。



【対策3】加害個体を捕獲 ～里山付近の生息数の個体管理～

○捕獲頭数に惑わされない。

捕獲頭数を増やせば被害が減ると考えていませんか。報告されている野生動物の捕獲頭数には、有害獣駆除の頭数に加え、狩猟で捕獲している頭数が含まれています。狩猟で捕獲されるものには、山間部に生息し農作物を加害しない個体が含まれているため、捕獲頭数が多いからと言って被害が減るわけではありません。

捕獲頭数を競うのではなく、被害を起こす個体を捕獲することが重要です。

☆対策 ～田畑周辺の加害個体を捕獲する～

捕獲を行うには正しい知識と技術を持ち合わせなければなりません。捕獲の失敗や獲り逃しは、ワナに対する警戒心を高め、捕獲がより困難になります。

また、捕獲する前に必ず環境整備、被害対策を行ってください。こうした対策を行うことで、ワナ内のエサへの誘引力を高め、捕獲効率が上がります。

なお、有害鳥獣捕獲には許可等が必要ですので、最寄りの市町村担当課へお問い合わせください。

□捕獲の前に考えること

畑に隣接している場所に箱ワナを設置すれば、加害個体を捕獲する確率は上がりますが、設置する場所はよく考えましょう。例えば、畑内部のよく食害される場所に箱ワナを設置したとします。野生動物は食べ慣れている新鮮で美味しい作物がすぐ側にある場合は、怪しいオリに入っていくとは考えにくく、畑内部の農作物被害が拡大する恐れがあります。

そのため、ワナは畑の外（防護柵の外側、園地の林縁部等）に仕掛けてください。



畑内に箱ワナを設置すると



畑内で作物被害が発生

3. おわりに

効果的な対策技術はかなり確立されてきており、理にかなった正しい対策をすれば被害は減ります。鳥獣被害は、動物だけの問題だけでなく、私たちが知らず知らずのうちに誘引している環境を作っていることに気づかなければなりません。是非皆様で話し合い、この3つの基本を踏まえて対策を実践してください。